

「犯人探しはしません」

子どもに何らかの問題行動が見受けられるようになった時や成長発達に遅れがあると指摘を受けた時、どうしてこうなったの？、原因はなんだろう？と考えますよね。

「わたしの接し方に問題があったのでしょうか？」。多くのお母さんが追い込まれたような表情で、質問されます。

答えは、質問の通りかもしれないし、そうではないかもしれないです。

自分の子どもの幸せを願わない親はどこにもいません。いるとしたら、それは心が病んでいる状態ですので、病院その他で診てもらうことをお勧めします。

生まれてからこれまで親は自分なりに考えて全力で子どもを育ててきた。こちらもそう考えて親御さんと向き合うと、一人の人間として敬意をもって話を聞くことができます。人はどんなに頑張って装って接しても、自分のことを軽く見ているのか、大事な存在と見ているのか、相手に伝わってしまいます。自分のことを軽くみている人にはデリケートな心の内側を話したいとは思いませんよね。ですから、こちらは様々な相談を受けるとき、誰に、あるいは何に原因があるのかをいきなりさぐるようなことはしません。これからどうするのかを家族が落ち着いて考え、そのために必要なものを用意できるように支えます。

前を向いているうちに、自然に本人も家族も肩の力がふっとぬけていく。そうすると、母親だけでも父親だけでもなく、家族が複雑に絡み合った「絆」があることに気がづきます。何ごともなく過ごすのもいいですが、困ったことが起こるたびに「絆」を強くして、みんなで成長していく家族も魅力的だと思います。

関谷 久美子